

鹿児島で世界を語ろう！

第28回 外国人による 日本語スピーチコンテスト



公益財団法人鹿児島県国際交流協会

鹿児島県在住の外国の方に、日本語で意見を発表する機会を提供することで、外国の方の日本語能力の向上を図るとともに、鹿児島の国際化を考える上で、国籍や文化の違いを越えた相互理解・国際交流を深め、多文化共生の社会づくりを目的として、「鹿児島で世界を語ろう! 第28回 外国人による日本語スピーチコンテスト」を実施しました。

今回は、13ヵ国 30名の県内在住の外国の方から応募があり、その中から、7ヶ国 10名の皆様が本選でスピーチを行いました。発表スピーチの内容を御紹介いたします。

令和5年1月28日(土)
かごしま県民交流センター1階 県民ホール
(御来場者数: 124名)

開会

主催者あいさつ 公益財団法人鹿児島県国際交流協会 理事長 津曲 貞利

スピーチ発表

審査結果集計

審査結果発表

表彰 最優秀賞・優秀賞・奨励賞・審査員特別賞

講評 志学館大学 人間関係学部 教授 勝田 順子

閉会

審査員(敬称略・順不同)

勝田 順子 (志学館大学 教授)

土肥 克己 (鹿児島県立短期大学 教授)

高島 まり子 (鹿児島ユネスコ協会 常任理事)

中尾 成昭 (鹿児島国際化推進協議会 会長)

川路 真一 (南日本新聞社読者局読者センター センター長)

岩切 剛志 (かごしま県民交流センター 館長)

吉村 博幸 (公益財団法人鹿児島県国際交流協会 事務局長)

※今回も前回に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、来場者の人数を制限し(客席定員170席)、入場の際には、マスク着用、手指消毒、検温のご協力をいただきました。

【最優秀賞】



氏 名 ユン チェユン
国・地域 大韓民国
在日期間 7ヶ月
所 属 神村学園高等部

タイトル： 国籍からの自由

こんにちは。私は大韓民国から来たユン チェユンと申します。

私は自分がこの場でスピーチをすることができてとても光栄です。今日、私をこの場にいさせてくれた三人の話をお聞かせします。

その一つ目は、私が小学生の頃にさかのぼります。私の学校には母が日本人で父が韓国人の友達が一人いました。ランドセルをしょい、その当時日本で流行していた服を着ていたその友達は、他の韓国の小学生とはかなりかけ離れた存在のように見えました。そんなある日、私とその友達は同じ討論サークルに入ったことをきっかけに親しくなったのですが、他の韓国の学生と全く違わず驚いた記憶があります。恥ずかしい話ですが、幼い頃私は、その友達を日本人ハーフだという理由だけで「私たちとは違うだろう。」という偏見に満ちた考えを持っていました。その友達と私は一緒にたくさん日本と韓国について話を交わして、私が日本について関心を持って日本語を勉強するきっかけを作ってくれました。

そして時間が経って中学生になった時、私は日本語をもっと深く学びたいと思い、日本語の塾に通うことになりました。その塾は韓国人と結婚した日本人の先生が運営する塾でした。私は先生と一緒にたくさん話を交わしながら日本語と日本の文化について学ぶことができました。ある日私は先生にこんな質問をしました。

「私が日本に行った時、どうすれば日本人の友達を作ることができますか？」

その時、先生はこう答えました。

「人と関係を結ぶとき、国籍に基づいてはいけません。国籍に基づいた友情は、一人の国籍を一次的に考え、平面的に考えやすいのですよ。これがまさに私がこんなに長い時間韓国で生きてこられた理由でもあります。私が韓国で築く関係は日本人と韓国人の関係ではありません。その関係にはその人と私だけが存在するのです。」

先生はいくつかの文化が彼らだけの違う信念を持っていて、文化別に注意しなければならない点があるのは事実ですが、ひたすら国籍に基づいて友情を築こうとすれば、その人との関係間で問題が生じるだけでなく、その国自体に対する誤解と期待につながりか

ねないと言いました。

私は最初から答えが存在しない質問をしたのです。その日は先生の助言から私が海外に出て外国人と関係を結ぶ時、発展させなければならない方向性について深く学ぶことができました。

そして高校生になって私は日本語の実力をもっと成長させたいという気持ちでペンパルを始め、ある友達に出会いました。その友達は父が日本人、母が韓国人のハーフでしたが、日本で生まれ、ずっと日本で暮らしてきて国籍も日本国籍を持っていたので韓国語もほとんど話せませんでした。それで私はその友達が当然自分のアイデンティティを日本人だと思っているだろうと勝手に判断していました。しかしその友達は私にこう言いました。

「私は日本人ですが、同時に韓国人でもあります。私は自分がハーフで、二つのアイデンティティを持っているという事実を誇りに思います。」

友人の話聞いて、私は国籍というのは本当にその人を定義できないことに気づきました。彼女のパスポートには日本人と書いてありましたが、彼女は日本人であると同時に韓国人であるとも思っていました。私はそれに気づいてからその友達にまともに向き合うことができました。国籍から自由になって初めてその人をその人自身としてみるのができたのです。

ある人は、私たちが変わらないことを教えてくれました。

ある人は、友情は国籍に基づいてはならないことを教えてくれました。

そして、ある人は、国籍はその人を定義できないということに気づかせてくれました。

私はこの三人から学んだことを忘れずに日本に来て今この場に立っています。この学びがなかったら、私は日本に来られなかっただけでなく、日本に適応できず、すぐに韓国に帰っていたかもしれません。国籍という枠で日本で築いた友達との関係はすべて「韓国人」と「日本人」で止まってしまっていたはずですから。ほとんどの人は外国人と関係を結ぶとき、主に国籍に基づいた関係に発展させる傾向があります。他国から来た人々を国籍で縛ってしまえば、その人を文化と慣習の面で理解しやすくなり、互いに異なる文化を学ぶ機会になりうるということは事実です。しかし、このような考え方は国籍によって人を判断してしまったり、ある国に対する偏見を持って潜在的な友人を排除してしまう結果を招く恐れがあります。

これから時間が経てば経つほどもっと多文化家庭が多くなり、私たちの周辺でも外国人を簡単に探すことができるでしょう。私たちはこれ以上友情を築いていくことに国籍が障害物になるようなことはしてはいけません。国籍は私たちを決定づけるものではないのです。

皆さんも周りに外国人の友達はいますか？それなら、その友達から「外国人」という概念を無くして、皆さんの友達を見てあげてください。国籍から自由になった時、初めてその人が見えますからね。



【優 秀 賞】



氏 名 アラヤン レンズ
カイル ロブレ
国・地域 フィリピン
在日期間 2年
所 属 九州日本語学校

タイトル： お金持ちになりたい

「数えきれないほどのお金！カッコいいスポーツカー！豪華な3階建ての家！」
幼い頃、「何が欲しい？」と聞かれると私は、ためらうことなくこの3つを答えていました。

私はフィリピンの貧しい家庭で育ちました。父は安定しないジープニーの運転手で、母は主婦でした。父の給料は、私たちが生きていくのに最低限のレベルでした。

7歳の私に母は、「カカイ、何になりたいの？」と暖かい笑顔で聞きました。『スーパーマン、スパイダーマン、ヒーローになりたい！』普通の7歳の子供なら、そう答えるのでしょうか。でも、私は違いました。幼いながらも、貧困から脱出し、早く成長したいと思っていた私は、「家族を裕福にしたい！」と願っていました。それで、フィリピンの銀行で、たくさんお金を数えていて、豪邸に住んでいる母の親友の兄弟を思い浮かべたのです。自分の部屋さえ持っていない私は、「彼のような銀行員になりたい。お金持ちになりたい！」そう思っていました。

フィリピンの中学校では、「キャリアウィーク」というイベントがあり、大人になったら自分の好きな職業に就くように指導されています。ある時、従妹の恋人のスポーツカーに乗る機会がありました。私のような好奇心旺盛な子供は、その赤いスポーツカーに乗る感覚がカッコいいと思って憧れました。それで、私はビジネスマンに扮して喜んで、食事を準備している母のところに行って、こう言いました。

「*Ladies and Gentlemen, the multi billionaire.*」 「お母さん、やっぱり私はたくさんお金をかせいで、赤いスポーツカーに乗って、街中を乗り回したい！ビジネスマンになってお金持ちになります！」

高校生になった時、学校の課題はインターネットがないと出来ませんでした。しかし、私の家にはインターネットがありませんでした。だから、従妹の豪華な家によく泊まっていました。実は、私の従妹の両親は仕事をしていませんでした。でもどうやってそのような豪華な家に住んでいたのでしょうか。それは、海外駐在員としてスイスで働いているおじがいたからです。それで私はこう思いました。「私は海外で働いて、普段家で寝

ている親にいいベッドを買ってあげたい。私はお金持ちになりたい。」

今私は、留学生として日本に滞在し、アルバイトもしています。ここでの生活を通じて、海外で働くことがすべての成功への近道だという考え方は間違っていると気づきました。勉強とバイトの繰り返しは辛かったです、無駄ではありませんでした。先日、母に電話して日本の大学で勉強するチャンスを得たと伝えました。「卒業して安定した職業に就いたら、必ずお金持ちになる！」と強く伝えました。本来であれば、祝福の時のはずです。しかし、母は泣きながら、「大事なものはお金じゃなくて、家族のための愛情や友情だよ」と言いました。この言葉は、私の胸に深く突き刺さりました。今でもその言葉は鮮明に耳に残っています。

だからもし今、「将来は何になりたいのか」と聞かれたら、やっぱり「お金持ちになりたい！」と絶対にそう答えるでしょう。ですが、それ以上に、「私は、母のようにになりたい」と世界中の人に言いたいです。母のように、どんなに辛くて困難な時でも、笑える。どんな時でも幸せだと言える。今、自分の持っているものに満足できる人になりたい。そう願っています。

皆さんは、何になりたいですか？

いえ、質問を変えましょう。

誰のようになりたいですか？

ご清聴ありがとうございました。



【優 秀 賞】



氏 名 ケー ジン ウー
国・地域 ミャンマー
在日期間 8ヶ月
所 属 神村学園専修学校

タイトル：心の支え

皆さんにとって心の支えになる大切なものがありますか。お金、友達、小学生の時はランドセルかなあ。大切なものは、年を重ねるにつれて変わるとは思いますが、私にとっての心の支えは、いつも1つだけです。

私は小学生から高校生まで仲良しの友達が1人いました。私たちは同じ大学に行く約束をしていましたが、その子は高校を卒業してすぐ結婚してしまいましたから、大学には行きませんでした。私は大学に入りましたが、自分が何をしたいのか分からなくて、ただ1人だと寂しいというだけで大学やめようと思って母に言いました。「お母さん、私、大学行かなくてもいい？」すると母は「何で行かないの？」と聞きました。私は「特に理由はないけど、1人だと寂しいし」と答えました。その時、母は「ねえ、よく聞いて。人間は生まれてからずっと1人じゃないよ。目に見えない友達がいるの。それは勇気とやる気よ」と教えてくれました。その時「勇気とやる気が友達って、変な感じ」と思いましたが、私はとりあえず大学に行くことにしました。

私は大学で英語を専攻していましたが、姉が日本語を勉強していたので、英語よりも日本語に興味を持つようになり、日本に留学することにしました。でも、コロナの影響で日本へ行く飛行機の便数はとても少なくて、私は去年の6月にやっと日本に来ることが出来ました。2か月も遅れて入学した私にとって、みんなに追いつくのはとても大変でした。留学生活が大変なことは覚悟して来ましたが、授業も友達作りも難しかったです。その時、私は「どうしよう」と、また不安な気持ちになりました。でも、その時、母が言ってくれた「人間は1人じゃない。勇気とやる気、その2つをちゃんと使えると必ず成功出来る」という言葉を思い出しました。

私は夜になると、今日の私はどういう人だったか考える癖があって、その日の自分の行動や、自分が言った言葉を反省します。そうすると、今日の自分がどんな人だったのか、どれくらい成長できたのか、まだ成長していないのかよくわかってきます。せっかく日本に留学するチャンスを掴んで来日したのに、くよくよしているなんて。私はまだ成長していない、高校生のままだ。母が教えてくれたことを無駄にしないために、私は勇気とやる気を頑張って使いました。母のお陰で、ミャンマー人が1人しかいないクラスで新しい友達や、目に見えない友達と楽しく勉強しています。「お母さん、私はお母さんの子どもとして生まれてきて良かったです。いつもお母さんの言葉を思

い出して、前に進んでいますから安心して下さい」今まで恥ずかしくて言えなかったけど「お母さん大好きです」私にとっての心の支えは母です。



【優 秀 賞】



氏 名 マルケス マーゼル
国・地域 フィリピン
在日期間 9ヶ月
所 属 九州日本語学校

タイトル：旅で広がる視野

朝も夜も関係なく人が多くてにぎやか。人々の笑う声やたくさんの車の音が響く。私が育った大好きなフィリピンの街は、こんな場所でした。その街は幼かった私にとって、世界のすべてだと感じていました。街にはゴミが多かったり空気が汚かったりしたのですが、当時の私にはそれが当たり前前の光景で、普通の日常でした。ところが、その当たり前前の感覚が14歳のとき大きく変わったのです。

それはシンガポールに家族と旅行したときのことでした。シンガポールの街を見ると、そこには私が知る世界とは全く違う景色が広がっていました。道にゴミが全然落ちていないのです。人目につくところにはゴミが全然ありません。都会なのに空気も新鮮に感じられ、見渡す限り清潔なところでした。街をよく見ると、禁煙や落書き禁止といった標識がいくつも見られました。また、街でガムを噛んだり、ポイ捨てなどをすると10万円前後の高額な罰金が科されるのです。私はこのことを知り、本当に驚きました。フィリピンにもゴミのポイ捨ての罰金はありますが、1000円程度であまり厳しくはありません。私は、シンガポールの街がこんなにきれいなのは、このような厳しい罰則があるからだと理解し、フィリピンも同じようにすればもっときれいな国になるのと思いました。

それから時が過ぎ、9か月前の4月、私は留学生として日本に来ました。日本もシンガポールと同じように街にゴミが少なく、きれいです。きっと日本にもシンガポールのように厳しい法律や高い罰金があるのだらうと思いました。ところが、そうではなく日本のゴミ捨てに関するルールはシンガポールほど厳しくはないのです。法律による罰金や罰則もありません。なのにどうして日本の人たちは、自分たちの街をこんなにきれいに保っているのでしょうか。

私が今の学校生活で驚いたことの1つに、授業後の掃除があります。これは学生が交代で毎日やらなければならないものです。初めは驚きましたが、話を聞くと日本では小学校から高校、専門学校などでも、ほとんどの学生たちが教室や学校全体の掃除を毎日行うようです。そうして、自分の身の回りをきれいにしていこうという意識を子どものうちから持たせるのです。街を歩いていると、年配の方が自分の家の前だけでなく、となり近所までそうじをしているところをよく見かけます。きっと子どものころからの「いつも自分の身の回りをきれいに保つ」という意識付けが、

大人になっても強く根付いているのだと思います。それで、日本の人たちは、自分たちの街は自分できれいにするという責任感のようなものを持ち合わせているのだと感じました。

これまでシンガポールと日本の街の様子を見て来て、どちらもきれいになっているのに、その方法がかなり異なっていることがわかりました。どちらのやり方が優れているのか、私にはわかりません。ただ、どちらの国の人たちもそれぞれの価値観で、自分たちの街をきれいにしていこうという気持ちを強く持っていると思います。フィリピンの街はシンガポールや日本に比べると、まだ改善の余地がたくさんあります。街がもっときれいになるように、1人のフィリピン人として私がそれぞれの国で経験したことを伝えていきたいと思います。そして、みんなでよく考えて新しい価値観を生み出し、いちばんいいと思う方法で、私の国をみんなできれいにしていくことが大切なのではないでしょうか。



【奨励賞】【審査員特別賞】



氏名 カバック メフメット
アダ
国・地域 トルコ
在日期間 10ヶ月
所属 神村学園専修学校

タイトル：靴を踏みつける

日本のアニメは世界中で愛されています。ドラえもんやキャプテン翼、ベイブレードは私の国トルコでも放送されて、とても人気があります。小学生の時に初めて日本のアニメを見て以来、“日本”は私にとって憧れの国になりました。そして1日でも早く日本へ行きたいと思うようになり、高校を卒業したら日本へ留学すると決めていました。それなのに、コロナという邪魔者が、日本行き
の道を通り止めにしてしまったのです。行きたくても行けない、何もできない私は狂ったようにアニメを見ては、日本への思いを募らせていました。

やっとの思いで日本へ来ることが出来て、私は毎日幸せです。楽しい日本の生活もあつという間に9ヶ月が過ぎました。実際に来てみると、アニメではわからなかった文化もたくさんあって、毎日が新鮮です。想像以上の小ささに未だに挑戦できない和式のトイレ、猫がなかなか出てこないこたつも体験しました。小さい箱に詰められた栄養と愛情たっぷりの、ホストファミリーのお母さんが作ってくれたお弁当は本当においしいし、日本って最高。国によって違う文化。実に面白い。

アニメの中で見る日本の生活。驚くこともたくさんありました。トルコでも温泉の文化はあるし、ちゃぶ台のような丸いテーブルを囲んでみんなで食事したり…「日本と似てる」と嬉しくなりました。

サザエさんを見たとき、お父さんと子供が仲良く一緒に入るお風呂の場面、他のアニメでもよく見たけど、トルコでは水着を着て温泉に入ることはあっても、家族でさえ裸で一緒に入ることはありません。日本ってこんな文化があるんだとアニメを通して知りました。

変わった習慣はどこにもあると思いますが、トルコには外国人ではなくトルコ人の私も変だと思ふ習慣があります。それは「靴を踏みつける」習慣です。誰にでもやるわけではなく、親しい仲間にするんですが。新しい靴。特に、白い靴を踏みつけるのです。みなさん。考えてみてください。

お洒落にキメてウキウキしながら歩いていると、突然踏まれる。自分が新しく買った靴を踏まれて汚れがいたらどうですか。でも、トルコでは、「アッ、やられてしまったか〜」と、あきらめるしかありません。なぜこのような習慣があるのか、いつ始まったのかもわかりませんが、私なりに考えてみました。私が言うのも変なんですけど、トルコ人は完璧だと見える物に対して嫉妬深いんだと思います。それで、他人がいいものを持っていると、それにちょっといたずらして、完璧じゃなくする。

やれやれだぜ。だれが始めたんだか、こんなことを。しかし、見方を変えれば、こんなことが出来る仲間なんだと気づきました。

鹿児島に住むトルコ人は片手で数えられます。鹿児島に来て、何度か国の紹介をする機会をもらい、発表しましたが、大好きな日本に住めて、自分の国を改めて見つめ直す。一石二鳥です。このような機会をもらえて嬉しい限りです。靴は汚したくないとは思いますが、このような習慣があるトルコに興味を持った方、ぜひ一度トルコを訪ねてみてください。私は、ここ日本で、靴を踏みつけ合えるような仲間に出会いたいと思います。



【奨 励 賞】



氏 名 チャン ティ グエット
国・地域 ベトナム
在日期間 4年
所 属 ジャパンファーム (実習生)

タイトル：もしも“あの頃”に戻れるとしたら…

みなさんのお父さんはどんな人ですか。

お父さんのことが好きですか？

私はお父さんが嫌い、来世があるならお父さんの子供になりたくない。

それは10年前にお父さんにそう言いました。

当時のベトナムでは、男尊女卑の考え方がまだ広くて、お母さんが4番目の娘を出産してから、家族の生活が一変してしまいました。お母さんは叔母さんに出ていけ、早く死ねとよく言われたり、暴言を吐かれたり、嘲られたりして、でもお父さんは何も言わないまま、お母さんを守ってくれなかった。それでお母さんはすごくストレスが溜まって我慢できず、結局私たちを残して遠く離れてしまいました。

お姉ちゃん、お母さんに会いたい、いつ帰ってくるの？幼い妹たちに聞かれるたびに、涙がこみ上げて、「もう来年お母さんきっと帰ってくるよ」、嘘の私が言いました。

どうしてお母さんを守ってくれないの？お母さんを守ってくれたら、今私たちとそばにいるんじゃない、自分の中でいつもお父さんを咎めてました。

ある日、家族みんなで夕飯を食べながら、突然お父さんが「高校卒業したら何がしたい？」と聞きました。子供の頃からずっと素敵な日本に憧れてるので、「日本に留学したい、日本の大学で勉強したい」と答えましたが、お父さんに「それはちょっと、今の家計で日本に留学するのは難しいよ」と反対されました。わがままな私は『あれ、子供を育てるのは親の責任じゃないの、私は女の子だから嫌われるのかな』と思っていました。

それからお父さんとあまり話さなくなりました。

でも結局1年後、2018年にお父さんのおかげで実習生として日本に来ました。

日本に来てから、お金を稼ぐのは簡単ではないということがわかってきました。

それでもお父さんは、私を日本に行かせるために人一倍仕事を頑張ってお金を貯金して、何年間も自分の新しいものを全然買っていませんでした。生活に疲れても、平気な顔をして、子供4人を養育するのが大変だけど、愚痴ったことはありません。

日本人は食事をする時、料理を作った人に対する感謝の気持ちを込めて、いただきます、ごち

そうまでしたという言葉、よく言いますよね。でも私はそういう言葉をお父さんに一回も言ってませんでした。感謝しないで料理を作ってくれるのが当たり前のことだと思ってしまいました。日本に来てから、お父さんの料理が愛情で作ってくれるから世界で一番美味しい…と気づきました。

数か月前に一時帰国して、5年ぶりにお父さんと再会できました。

髪色が白くなって、たくさんシワができて、特にお父さんの手にできたタコを見ると、感情が抑えられなくて涙が溢れてきました。

私を抱きしめて笑いながら、寄る年波には勝てねえよって言ってくれました。

なんであの時、お父さんの気持ちに気づけなかったの？

もし、時間が戻れるとしたら、ちゃんと感謝の気持ちを伝えたい、悩みが聞きたい、絶対心配させない。

あの時、いい加減なこと言わない、お父さんの悩み、苦しみを同情したら、お父さんあんなに寂しくならなかったかもしれないなって、自分を責めました。

日本の大学で勉強できなくても、お父さんのおかげでせめて実習生として素敵な国に来ました。そして日本に来たきっかけでお父さんの大変さ、お父さんの気持ちに気づきました。心から本当にありがたいです。

お父さんがまだそばにいてくれるうちに、後悔しないように、これからもっと大切にします。

お父さんは立派な男ではありませんが、私にとって立派なお父さんです。

最後にまたみなさんに質問です。

お父さんのことがどれくらい分かってますか？

感謝の気持ち、愛情の気持ち、お父さんにちゃんと伝えましたか？

これで私のスピーチを終わります。

ご清聴ありがとうございました。



【奨 励 賞】



氏 名 ワン エイダン トモカズ
国・地域 ニュージーランド
在日期間 2年
所 属 ALT（喜界町教育委員会）

タイトル：幸せをつなぐ三線

2020年12月、私は喜界島にALTとして赴任した。喜界島に行くことが決定した時から、私の周囲の人々は、私は喜界島には長くいることはないだろうと思っていた。誰よりも私もそうだった。都会生活ばかりだった私にとって、孤立した島で、限られた人間関係で生活することは、不安でいっぱいだった。しかし、それは三線との出会いで、すべて変わった。

三線は、喜界島では一家に一つあるくらい重要な楽器です。島魂を唄にのせて、三線と共に、文化や歴史を伝えます。三線は昔の辛い歴史を保存している道具であり、結婚式の時には、楽しくお祝いをする道具でもあります。嬉しい時も、悲しい時も、いつも三線はそばにいます。

新型コロナウイルスが拡大した当初、島の唯一の外国人として、喜界島に住み始めた私は、とても不安に感じていた。島の人々が、自分のことをどう思っているのか、どんな風にコミュニケーションをとっていいのかわからなかった。そんな時に、ある人から奄美三線と出会う機会を得た。

練習が始まり、演奏を聞いたときに、言葉にならないほど、心が震えた。方言で意味はほとんどわからなかったけれど、そこには魂があった。島の人々は、私が理解できるように工夫をして教えてくれた。お年寄りも子供も、若い人も、年齢関係なく、魂をのせるその姿は、衝撃的だった。

その日から、私と三線の旅が始まった。少しずつ弾けるようになり、音楽の楽しさをあまり知らなかった私が、どんどん音楽の世界にのめり込んでいった。そして、三線を持って旅をするようになった。瀬戸内海、大阪、京都、奄美大島、沖縄、そして鹿児島市。三線を持って旅行をしていると、おもしろいことが起き始めた。初めての土地で、初めて出会う人も、三線を持っている私には、たくさんの日本人が話しかけてくれた。

「音楽好きなの?」「何を弾くの?」など、普段ならできない会話ができた。その人達の中には、有名なミュージシャンもいた。彼らとセッションができたり、案内してもらったり、かけがえのない時間を手に入れた。

今年の9月、この三線のおかげで、信じられないことが起きた。大阪に住む祖母に、初めて三線の演奏を聞いてもらった。喜界島での生活について、祖母に聞かせたかったので、2,3曲島の唄を演奏し、唄を歌った。そして、奄美の「島ブルーズ」を弾き始めると、なんと祖母が突然歌いだした。私はとても驚いた。まさか、祖母とセッションできるとは思っていなかった。三線と出会って

練習してきた日々は、きっとこの瞬間のためだったと感じた。三線は、私と祖母の距離を、より縮めた。

三線と喜界島の人々との出会いにより、私は想像もしていなかった財産を手に入れた。喜界島に赴任が決まり、不安だらけだった自分に、言いたい。多くの出会いと、三線との出会いにより、これまで以上に充実した日々が待っているよと。これからも、幸せをつなぐ三線と私の旅は続きます。どうかみなさんも、自分の幸せをつなぐ三線を見つけてください。



【奨励賞】



氏名 サドルディン ヤヒヤ
国・地域 エジプト
在日期間 3年5ヶ月
所属 鴨池小学校

タイトル：僕の将来の夢

僕の将来の夢は、サッカー選手です。サッカーが大好きだからです。5歳の時、初めてサッカーの試合をテレビで見ました。あまり覚えてはいないけど、サッカーってすごく楽しそう!と思ったことは覚えています。

だから、エジプトで小学校1年生になって、サッカー少年団に入りました。練習をたくさんして、2年生の時にはレギュラーになりました。試合にたくさん出て、とても楽しかったです。試合中に、フリーキックでゴールを決めた時は、最高でした。

小学校3年生の夏、お父さんの仕事で日本に行くことが決まりました。エジプトをはなれること、サッカー少年団をやめること、とても悲しかったです。でも、日本にはどんなプロサッカー選手がいるのか、楽しみもありました。日本でも絶対にサッカーを続けようと思っていました。

でも、僕は日本語がわかりませんでした。サッカーを日本の友達とするために、まずは、日本語を勉強して、うまくなろうと思いました。毎日たくさん日本語を聞いたり、話したり、がんばりました。そして、5年生の夏、アストウロというサッカー少年団に入りました。どうしても、サッカーがしたかったからです。入った最初の日、「またサッカーができるぞ!がんばるぞ!」と、すごくうれしかったです。サッカーができるようになってうれしかったけど、チームには、僕より上手な子がたくさんいました。だからレギュラーには、なかなか入れません。くやしいです。もっとうまくなりたいです。

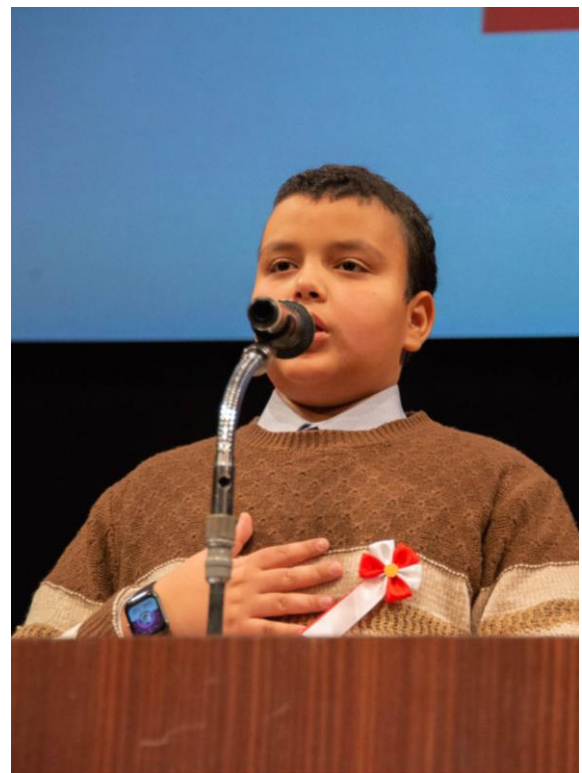
エジプトのムハンマド・サラ選手、ポーランドのレヴァンドフスキ選手、アルゼンチンのメッシ選手。僕が大好きな選手たちです。ムハンマド・サラ選手は、遠い所からでもゴールに向かってシュートを決めます。レヴァンドフスキ選手は、ゴールをたくさん決めます。メッシ選手は、ドリブルが上手です。どの選手も、うまくて、かっこいいです。この選手たちよりもうまくなるのが、僕の目標です。

目標の選手たちに近づけるように、がんばっていることが2つあります。1つは、ドリブルと走ることです。サッカーは、とにかく走ることが大事です。だけど、僕は走ることが苦手です。走ることが得意になれるように、少年団でたくさん走りこんでいます。

2つ目は、動くことです。サッカーは動くことも大切です。「パス!パス!」と言っているだけでは、ボールは来ません。だから、自分から動いて、もらいにいたり、とりにいたりすることを、がんば

っています。

サッカーはとても楽しいスポーツです。世界でも人気があるスポーツです。僕は、エジプトでサッカーを始めて、来るまで「日本」という国の名前しか知らなかった日本でも、サッカーを続けています。どこの国でプレーしても、サッカーは同じだと感じました。世界の人とつながることができるサッカーは、すごいと思います。これから、もっともっとうまくなって、いろんな国の人とサッカーをしたいです。サッカー大好きです！



【奨励賞】



氏名 チェウ ティ ホア
国・地域 ベトナム
在日期間 2年
所属 九州日本語学校

タイトル：コンフォートゾーンから抜け出す

皆さん、「comfort zone」という概念をご存じですか。

コンフォートゾーンとは、心理的に満足している状態であり、快適で周囲に親しみを感じる場所ということです。一言でいえば、『居心地のいい場所』と言えます。コンフォートゾーンにいれば、あまり心配することなく、繰り返しの行動や手順を実行することができます。ただし、この状態は、より高い基準やさらなる成果に到達するための意欲があまりない、湧かないこともあります。仕事でも他の生活の分野でも新しいことは起こりません。

多くの人は、コンフォートゾーンから抜け出すことを試みる必要があるだろうかと疑問に思えます。私の答えは、『抜け出すべきだ』です。試してみる価値のある行動です。それは、あなたにさらに多くの経験をもたらすからです。例えば、自己啓発の機会を得たり、自分をもっと理解したり、自信を持ったり、新しい関係を作ったりすることができます。

しかし、コンフォートゾーンから抜け出すためのその過程は、時に、冒険のように感じられることがあります。それは、多くの困難に直面することがあるからです。ただし、そこで得た成果は、はるかに大きく、あなたにもっと喜びと誇りをもたらすでしょう。

それでは、あなたはコンフォートゾーンから抜け出す経験をしたことがありますか？

私が自分のコンフォートゾーンから抜け出したと感じたのは、日本に留学以来ずっとしてきたアルバイトをやめることにしたときです。1年以上の間、毎日、繰り返してきたことは昼間に学校で勉強し、夕方にアルバイトをし、夜遅くに寮に帰り、宿題をするということです。そのような安定した毎日が一年以上続き、穏やかな生活を送っていました。しかし、心のどこかでせっかく日本に来た以上は、色んなことを体験したいとも思っていました。ですから、私は思い切って、そのコンフォートゾーンから抜け出すことにしました。その時、もちろん、不安もありました。この決断は正しいのだろうか？今の仕事を辞めた後どうなるのだろうか？新しいアルバイトを見つけることはできるのだろうか？授業料と生活費を支払うのに十分なお金は準備できるのだろうか？と次々と心配なことが出てきます。

しかし、その安全地帯から抜け出した後、私は以前より積極的になり、行動を起こし、自らの力で、アルバイトを見つけることもできました。

みなさん、コンフォートゾーンから抜け出すことは、そんなに難しいことではありません。まずは、行動を起こすことです。そうすることで、色んなことを学ぶことができます。私は、たとえ間違っても、勇気を出して日本語が話せるようになりました。積極的に新しい友達と会話を始めることで、新しい人間関係を築くことができ、人生がよりカラフルになりました。ときには期待とは違う結果になったり、いやな関係になったりすることもあります。その経験からさらに多くの教訓を学ぶことができます。この変化は私に多くの新しいものをもたらし、私の障壁を打ち破るのに役立っています。

みなさん、これから、より多くの成功体験を得るためにも、自分のコンフォートゾーンから抜け出してみましよう。そして、勇気と自信を持って挑戦してみましよう。



【奨励賞】



氏名 チャン ティ ヒエン
国・地域 ベトナム
在日期間 10ヶ月
所属 九州日本語学校

タイトル：世の中、金次第だ

「お父さん、考えてみてください。どんな仕事をしていても、最後の目的はお金を稼ぐことです。世の中は金次第です」

7年前、子供の頃からずっと憧れていた仕事をあきらめ、お金を稼ぐために実習生として日本に行く決心をした私は、両親にこう言いました。

「ヒエン、一体何を言っているの？いい仕事をしてるじゃないか。なぜ？これまでの努力は無駄になんてならないよ。お金がすべてではないよ」

父は、怒ってそう言いました。

両親は絶望に満ちた目で私を見ました。しかし、当時の私は若すぎて、両親の懸念に気が付きませんでした。この後、長い間、父と私は話をすることがありませんでした。

そして、2016年9月、両親や周りの反対を無視して、日本に行きました。国である程度、日本語や日本の文化について勉強してきた私にとって、研修センターでの最初のひと月はとても楽しかったです。私のことを心配して、毎日ビデオチャットをしていた母に、

「お母さん、心配しないで。日本の生活は大丈夫、充実しているよ。選んだ道は、間違っていないよ！」

私は自信たっぷりにそう言いました。

1ヶ月後、受け入れた会社での仕事が始まりました。最初、仕事に慣れなくて、失敗ばかりしていました。『自分は本当に能力が無いな』と落ち込みました。毎日辛くて、朝起きて会社に行くと思ったら本当に怖かったです。

どうすれば仕事が早くできるようになるのか、このままじゃ皆に迷惑をかけてしまうと悩んでいる時に、母からの電話がかかって来ました。母の声を聞いたとたん、涙があふれてきて、言葉になりませんでした。

「ヒエン、泣かないで。大変だったら、うちに戻っておいで。私たちはいつでも大歓迎だよ」

しばらく話をしていなかった父の声を聞きました。

その瞬間、私はハッと気が付きました。

学生時代、学校で仲間外れにされた時、結果を出せずに落ち込んだ時、いつでも安心して、心

を休め、自分らしく居られる『家』という『帰る場所』がありました。

そうだ!私には、私を信じて待っている家族がいる!

父の言葉は、私の心の支えになりました。そして、両親に成長した姿を見せたいという気持ちが湧いてきました。それから毎日、自分に「頑張っ、大丈夫!お父さん、お母さんが見ているよ」と言い、積極的に行動するようになりました。だんだん仕事が早くできるようになり、日本語も上達しました。

この3年間の経験を通して私は成長し、考え方も大きく変わりました。『世の中は金次第だ』という人生についての考え方は、間違っていると気付きました。お金がたくさんあっても変えないものがある。お金より大切なものは、他にたくさんある。それは、人によって、また時によっても変わります。

「28歳だよ。その年齢で、学校に通うなんて、ベトナムで今の仕事を続けて、お金を貯めたほうがいいんじゃないの?お金さえあれば、なんでもできるよ」

今回、留学生として改めて日本に来る前に、ほとんどの同僚からそう言われました。

しかし、今回の目的は、『お金を稼ぐこと』ではありません。『世の中の役に立つ仕事をするこ、と・意味がある人生を送ること』です。

自分が選んだ道とはいえ辛いこと、失敗することもたくさんあるかもしれませんが。しかし、挑戦しなければ、願いは叶わない。やらずに後悔するよりやって後悔したほうがいい。

お金より大切なものが私にはあります。



主催

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

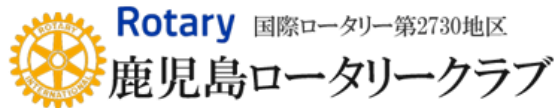
後援

鹿児島県日中友好協会	鹿児島県マレーシア友好協会
鹿児島市日中友好協会	鹿児島スペイン協会
鹿児島日英協会	鹿児島日豪協会
鹿児島日独協会	鹿児島日仏協会
鹿児島日華親善協会	鹿児島日韓親善協会
(一社)鹿児島県日越友好協会	鹿児島国際化推進協議会
鹿児島県	鹿児島県教育委員会
鹿児島市	鹿児島市教育委員会
鹿児島商工会議所	(公社)鹿児島青年会議所
国立大学法人鹿児島大学	国立大学法人鹿屋体育大学
鹿児島国際大学	志學館大学
第一工科大学	鹿児島純心女子大学
鹿児島県立短期大学	鹿児島工業高等専門学校
学校法人赤塚学園	
学校法人九州総合学院鹿児島情報ビジネス公務員専門学校	
学校法人神村学園高等部 神村学園専修学校	
学校法人原田学園鹿児島キャリアデザイン専門学校	
九州日本語学校	
(株)南日本新聞社	NHK鹿児島放送局
(株)南日本放送	K T S鹿児島テレビ
(株)鹿児島放送	K Y T鹿児島読売テレビ

きょうさんかくしゃ　かくだんたい
協賛各社・各団体



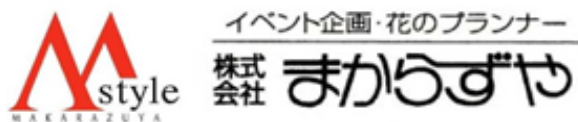
鹿児島トヨタ



特定非営利活動法人　くるす
NPO法人　KLS



NANOAY
南生建設株式会社



弓場貿易株式会社
YUMIBA TRADING CO.,LTD.

ワールドサンフーズ(株)

御協賛
ありがとうございました
(50音順)

